

先生・お薦めの一冊

『舟を編む』 三浦 しをん 著 (光文社)

理科 日高 大祐 先生

タイトルは舟ですが、辞書編集に携わる人たちの話です。

「いぬ」という言葉にはどんな意味があるでしょうか？動物のイヌという意味だけではありません。「権力の犬」「犬死に」「そこに居るのに、居ぬ」など、使い方によっていろいろな意味を持ってきます。辞書は言葉の意味を別の言葉に置き換えて説明していますが、ひとつひとつの言葉の意味をあらゆる角度から吟味しています。一冊の辞書をつくるために、多くの人が大変な苦勞をしているのだということが分かる小説です。

また、仕事についても考えさせられる一冊です。登場人物の荒木や馬締、松本先生はまさに辞書編集が天職のような人たちです。自分の興味があること、やりたいことを仕事にできているというのはとても幸せなことでしょう。そこにもう一人、そうではない人物が登場します。岸辺はファッション雑誌の編集をしていたのに人事異動で（嫌々ながら）辞書編集部に来た人です。はじめは訳のわからない仕事を嫌がっていたのに、周りの人たちに感化されて辞書編集のおもしろさにはまっていく。不本意な環境に不平不満を言うのではなく、その環境で今の自分にできることを見つけて頑張る、そういう姿勢は仕事でも学校でも大事です。

以上のような紹介ではお堅い小説なのかなと思われそうですが、恋愛関係が絡んだり会社内の駆け引きがあったりして楽しみながら読めます。この本を読めば辞書を大事に扱い、もっといろいろな言葉を調べてみたくなるはずです。本をあまり読まない人、ぜひ読んで言葉の海を航海する楽しさを味わってください！

*鹿児島中央高校生にも人気の三浦しをん。
先日、3年生のTさんが三浦しをんの作品にとっても感動したと紹介してくれた本があります。『神去なあなあ日常』という林業の本です。そして、林業の勉強もしてみたい！とのこと。将来を決める本との出会いもあります。

敬愛館に所蔵する*三浦しをん*の本

『まほろ駅前狂騒曲』『格闘する者に〇』『風が強く吹いている』『月魚』
『秘密の花園』『私が語りはじめた彼は』『きみはポラリス』『政と源』
『木暮荘物語』『神去なあなあ日常』『舟を編む』・・・等々。



新着図書案内

『家族シアター』辻村 深月 著 (講談社)

『3時のアッコちゃん』柚木 麻子 著 (双葉社)

『聖路加病院で働くということ』早瀬 圭一 著 (岩波書店) *将来、医療関係の仕事に就きたいと考えている人・・・読んでおきましょう。

『輝く瞳とともに』石川 克則 著 (かんき出版) *学校のない国に学校を作る！学べることは、当たり前ではない・・・。

『おしゃべり科学』奥本 素子 著 (カンゼン) *科学から見えてくるもの、科学が教えてくれること、文系の人も読んでください！

『弱者の勇気』栗城 史多 著 (学研パブリッシング) *なぜ、山に登るのか、そこに山があるから・・・登山家の自伝。

『日本の産業遺産図鑑』二村 悟 著 (平凡社) *日本人の技術は世界に誇れるものと確信する一冊です。

『似ていることば』おかべ たかし 文 (東京書籍) *フクロウとミミズクの違いがわかりますか？誰かに違います！！

『ザ・富士山』赤坂 治彦 著 (新潮社) *富士は日本一の山！美しい富士山の景観をお楽しみください。

『1%の力』鎌田 實 著 (河出書房新社) *1%の力を他者に向けたなら、誰かが幸せになるかもしれません。

『どこまでがドビュッシー？』青柳 いずみこ 著 (岩波書店) *クラシック音楽のお好きな方へ！

『キャロリング』有川 浩 著 (幻冬舎)

『物語のおわり』湊 かなえ 著 (朝日新聞出版)

10月の統計

4月の貸出総数 547冊 5月の貸出総数 667冊 6月の貸出総数 226冊
7月の貸出総数 416冊 8月の貸出総数 119冊 9月の貸出総数 394冊

* 10月の貸出総数 324冊

学年	1年								2年								3年							
	組	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7
貸出数	5	9	0	7	1	1	15	4	21	32	4	3	46	7	12	30	13	9	2	7	61	20	9	6
合計	42冊								155冊								127冊							

「鹿児島中央高校文庫」

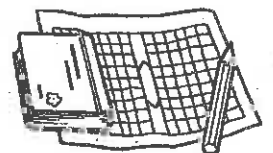
本校卒業生および本校で教鞭を執られた先生方が出版された本を集めた「鹿児島中央高校文庫」に、新しい本が仲間入りしました。

本校2期生 山内 廣隆 先輩 (広島大学名誉教授) 著 『ヘーゲルから考える私たちの居場所』 (晃洋書房)

本校12期生 尾崎 晋也 先輩 (ルーマニア国立交響楽団常任指揮者・音楽監督) 著 『笑うマエストロ』 (さくら舎)



*周囲の環境こそ違いますが、この校舎で学び、考え、悩み、そして笑った先輩方の本です。哲学から芸術の世界まで、先輩たちが幅広い分野でご活躍されていることがわかります。こつこつと学ぶこと、何かにチャレンジすること……。それを教えてくれるのが「鹿児島中央高校文庫」かもしれません。



一冊の絵本「かないくん」

谷川 俊太郎 作 松本 大洋 絵

詩人の谷川俊太郎さんの絵本です。谷川さんの文に、漫画家の松本大洋さんが二年もの歳月をかけて絵を描き、完成した絵本です。きょう、となりのかないくんがいない・・・と、静かに物語は始まります。病気のかないくんは、小学4年生の時に亡くなってしまいます。静かで悲しい物語です。

しかし、かないくんは、何かの拍子に小学4年生のままで思い出されます。かないくんは、残された人の心の中で生きているのです。谷川俊太郎さんの言葉と松本大洋さんの静かな絵が「死ぬとどうなるのか」という哲学的なテーマを淡々と綴った静かな絵本です。



編集後記

2年生の皆さんは、いよいよ国内体験学習に出発ですね！東京で沢山の知的な刺激を受けてきてください。そして3年生の皆さんは、体調管理をしっかりとし、目標達成に向かって頑張ってください！

お忙しい中、原稿をお書き頂いた日高先生ありがとうございました。与えられた環境の中で、自分に出来ることを見つけられる人間になれるよう頑張ります！

皆さんにも、素敵な本との出会いがありますように！

